

腫瘍マーカー

がんなどの腫瘍から作られたり、或いは腫瘍やその他の病気に対する反応として、体の細胞から作られる物質です。

肝臓がんで作られるAFP（胎児性蛋白）のように一定の臓器のがんでだけ作られるものと、CEAのように種々の臓器のがんで作られるものがあります。

腫瘍マーカーが陽性であれば、がんの有無を確かめるために、精しい検査が必要になります。

しかし、がんの可能性はありますが、必ずがんがあるとは限りませんし、がんがあっても陽性にならないこともあります。また、癌以外の良性疾患でも陽性となることがあります。

また、抗P53抗体^(*)のように、前がん状態（がんになる前の段階）から陽性を示すものもあります。現在問題がなくても、今のご自身の値から上昇傾向にないかどうか経過を見ることも必要です。

(*) 抗P53抗体の出現は、P53癌抑制遺伝子の変化に由来し、発癌抑制監視機構の変化を示します。定期的ながん検診で癌発生の有無を監視されることをお勧めします。

関連する腫瘍の部位	肺	食道	胃	大腸	肝臓	胆道	膵臓	乳	子宮	卵巣	甲状腺	その他
AFP												
CEA												喫煙、炎症性疾患、腎不全など
CA19-9												
シフラ												
SCC抗原												
CA125												
抗P53抗体												

- 基準値表 -

項目	異常域(低)	境界域(低)	基準域	境界域(高)	異常域(高)
AFP			~ 10.0		10.1 ~
CEA(N)			~ 5.0		5.1 ~
CEA(R)			~ 2.5		2.6 ~
CA19-9			~ 37.0		37.1 ~
シフラ			~ 3.5		3.6 ~
SCC抗原			~ 1.5		1.6 ~
CA125			~ 35.0		35.1 ~
抗P53抗体			~ 1.30		1.31 ~